

社会教育研究部門

「青年の自立と教育文化」研究部会（第53回）

日時：2017年7月21日（金）14:00～16:00

場所：野間教育研究所 2F 閲覧スペース

出席：田嶋一・上野浩道・内藤俊史・齋藤智哉・青柳路子 各兼任研究員

吉久知延所長・泉水里香

欠席：金沢千秋

内容：（1）田嶋一氏の研究中間報告

1. 紀要の「はじめに」（or「序」）の原稿を提出

◆内容の要約

- ・研究部会のテーマ成立の経緯について
 - ・「青年とは何か」について、現代若者論をふまえつつ、考察してきたこと
 - ・青年とは、自立をめざす存在、自分の人生を主体的に自分で選び取ることを希求し続ける存在である
 - ・前近代において、若者はモラトリアムの時期は与えられてなかったが、1960年代以降、特に21世紀を迎えて、モラトリアムを特徴とする青年的存在様態は若年層に行き渡ることになった
 - ・次に「自立」とは何か？
 - ①自立して大人になるという観点・用法では、精神的、社会的、経済的自立はインディペンデントな存在になることと重なる。
 - ②青年期が歴史的なものであるという観点・用法では、青年として自由に自律的に生きるとほぼイコール。
 - ・「大人」になるとは？ 近代社会では、一人前になること、大人になることの意味が曖昧。西平直樹は、それを「投企」として理解しようとした
 - ・教育的課題としては、青年の自立を支援する教育のあり方についての研究が重要となる
 - ・「教育」は、発達への意図的で助成的介入であるが、フォーマルな領域に属するものと、インフォーマルなものがある。制度的な教育が前者とすれば、出版文化やサブカルチャー、青年集団等、広がりのある周縁文化は後者であり、それら文化的・教育環境全体を「教育文化」と呼ぶことにした
2. 第1章以降の構成について

（2）「はじめに」の検討と議論

- ・「教育文化」の記述が少ないのでは？「投企」を論文のキーワードにしては？（上野）
- ・宮澤康人の「教育文化」を入れてみては？ 青年誌、少年誌の違いを調べたら面白いかも（齋藤）
- ・「おわりに」をすべて「はじめに」に入れることにする（田嶋）

・次回研究会は、8月25日（金）14:00～。